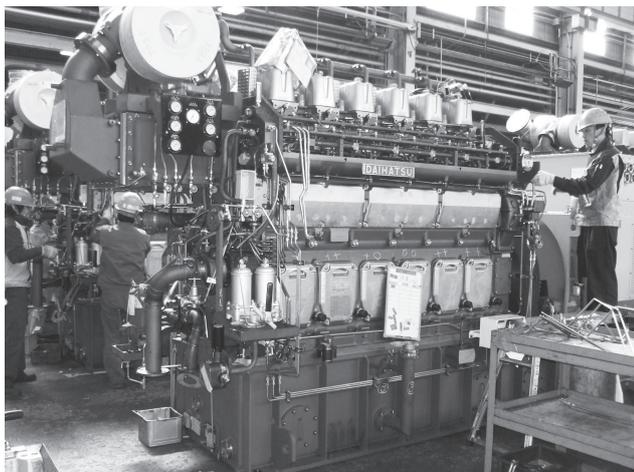


# 「製品認証取得の会員紹介」⑧

## ダイハツディーゼル株式会社・守山事業所



ダイハツディーゼル守山事業所の組立ライン

ダイハツディーゼル株式会社(大阪市北区大淀中。石橋徳憲社長)は「DAIHATSU」ブランドのエンジンで親しまれ、発電装置の製造メーカーとしても市場で高い信頼を得ている。エンジンに限らず、自動車用アルミホイール、オイルミスト検出器、玄関ドアの上部に付けられるドアクローザーの開発・生産も行うなど幅広い商品開発力にも長けている。

同社は本社ビルの地下に自社製1,000kW コージェネシステム×3台を設置するなどエネルギー高効率利用を率先して実践し、クリーンエネルギーの促進にも努めるなど環境重視の経営姿勢を示している。その一貫として環境に優しい新たなエンジン燃料として期待される「DME」(ジメチルエーテル)の実用化事業に取り組んでいる。今回は、滋賀県守山市にある生産拠点工場の守山事業所(守山第一工場・阿村町。守山第二工場・古高町)取材した。

### 創業の経緯

ダイハツディーゼルの創業は明治40年(1907年)3月、大阪で「発動機製造株式会社」として事業をスタート。顧客が用いた呼称「大阪の発動機」が由来となり、昭和26年(1951年)12月、「ダイハツ工業株式会社」と社名を変更した。昭和41年(1966年)5月、ダイハツ工業では自動車事業とディーゼルエンジン事業とを分離・独立させるのに伴い、ディーゼル生産を担う新会社として現在の「ダイハツディーゼル株式会社」が誕生した。そのため同社は創立を昭和41年(1966年)5月と制定している。資本金24億3,430万円。売上高415億円。従業員数932名(いずれも平成19年3月末現在)。製造事業所としては守山事業所(守山第一工場・守山第二工場)を保有している。

### 守山事業所

守山事業所は守山第一工場、守山第二工場で構成。第一工場の創業は昭和44年(1969年)、次いで昭和54年(1979年)1月に第二工場が竣工した。第一工場には工場部門のほか技術開発センター、同社史料館も併設され、平成13年(2001年)に同社技術部門が移転された。第二工場には研究工場も設置されている。守山事業所では平成18年(2006年)8月時点でエンジン生産実績が3,000万馬力を達成した。

守山第一工場は敷地面積10万5,081m<sup>2</sup>。船舶用・陸用のエンジンを製造している。工場内は機械加工ライン、装置の組立・試運転ライン、塗装・梱包ラインが整備され、

さらに機械加工ラインはクランクシャフト・エンジンフレームを加工する機械1工場と、シリンダヘッド・カムシャフトライン(旋盤)・ピストン・中小物を扱う機械2工場に分かれている。

一方、守山第二工場は敷地面積5万7,981m<sup>2</sup>。ロッド完成品・板カム完成品を扱い、第一工場の組立ラインへと供給している。

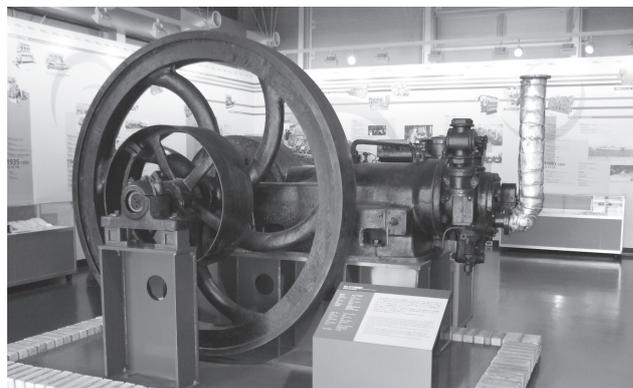
### エンジン事業について

ディーゼルエンジンは、バルクキャリアやコンテナ船に搭載される発電機として「6DK-20」「8DC-32」などを、推進機として「6DKM-36」などが多数出荷されている。陸用でも関西国際空港向けに非常用ディーゼル発電装置を、大阪府高槻市のポンプ場向けにポンプ駆動用ディーゼルエンジンを納入するなど多数の納入実績がある。昭和59年(1984年)1月からガスタービン発電装置の製造にも注力し「DT-20W(5,000kVA)」等、総計で350台を納入した実績を誇る。さらに三井-ダイハツ高効率ガスエンジン「MD-Gシリーズ」を開発し「MD20G」コージェネシステムとして販売している。プラジルで5,300kW 常用発電装置を納入するなど国内外で営業活動を展開している。直近の売上高は415億円。金額比率をみると、船用エンジン(主機関・補機関)約73%、陸用エンジン約25%、その他約2%。さらにエンジン台数比率をみると、陸用ではガスタービン約23.5%、ディーゼル約76.5%。船用では補機関が約80%を占めている。

### 新燃料DMEの開発に注力

同社は現在、「DD VISION 21」に基づく創造と共生を企業理念に掲げ、顧客満足の追求・地球環境との調和・環境変化に迅速に対応することを旨とし、CAN(チャレンジ・アクション・ナイスセンス)の実践に取り組んでいる。その一貫として石油の高騰・枯渇問題に対する液化炭素系の代替燃料であり、民生用、自動車用、都市ガス原料用として期待されているDME燃料及び発電設備の開発に既にJFE・岩谷産業・同社の3社が共同で着手した。

ダイハツ製ディーゼルエンジン(ボア径260mm・6気筒)をベースとした6DME-26発電設備(1,250kW)を用いた実証試験では、DME燃料からはNOx30ppm以下、PMとSOxは排出しないクリーン性能が証明できたという。平成22年(2010年)以降、中国でDME燃料の量産化事業に取り組み年産100トンを目指す。大気汚染で健康被害が取り沙汰される中国でクリーンエネルギーの供給事業を展開する社会的な意義は大きい。



日本の産業遺産300選に選ばれた同社の吸入ガス発動機関(大正2年製)